

日韓両言語の存在動詞の尊敬形式に関する一考察

南 得 鉉

1. はじめに

日本語と韓国語の特徴の一つは敬語を有するという点である。日韓両言語における敬語は、コミュニケーションをとおした円満な人間関係の営みに重要な役割をしているものであり、その用法も複雑なため、敬語に関する研究も、それぞれの言語ごとにさかんに行なわれてきた。しかしながら、日韓両言語の敬語形式間の比較対照は、十分であったとは言えない。

そこで本稿では、敬語形式のうち、尊敬形式を取りあげ、他の言語にはない独特な性質⁽¹⁾を持っているとされている日本語の存在動詞の尊敬形式と、韓国語の存在動詞の尊敬形式とを比較対照する。日韓両言語ともに、存在動詞の尊敬形式はそれぞれ「いらっしゃる」・「おありになる」と「계시다 /kyeysita/」・「있으시다/issusita/」の2つずつあり、その形式間の使い分けに注目して見ていくことで、日韓両言語の存在動詞の特質をより明確にし、存在動詞の尊敬形式間に見られる異同をも明らかにすることができると思う。

本稿で用いられる用例は文学作品から収集したものとしており、作例の場合は、母語話者の検証を得たものを用いている。また非文法的な用例に対しては*を附し、文法性に問題はあがるが非文法的ではないと判断される用例に対しては?を附して示す。

2. 先行研究と研究方法

敬語に関する最近の日韓対照研究には、荻野(1989)や荻野・梅田他(1990、1991)、全(1995)などがある。荻野(1989)では、かつての言語体系に偏った言語研究は望ましくないと指摘し、言語行動に重点を置いた対照社会言語学の観点から、日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法についてのアンケート調査を行ない、統計資料をもとに日韓両言語の敬語使用における異同傾向⁽²⁾について論じている。

その他、荻野・梅田他(1990、1991)、全(1995)でも、アンケート調査をとおして、ある条件や場面で、日韓両言語の敬語用法に如何なる異同現象が見られるかといったことを重心に考察しており、これらの研究も、荻野(1989)の言う、言語行動に重点を置

いたものと言えよう。

このような日韓両言語の敬語の対照研究が最近になって言語行動を重んじる方向へ向けられていることは、荻野（1989：49）も指摘しているように、言語体系の対照研究がさかんであったという考え方に因るものであると思われる。しかしながら、このような見解は、後述するように、少なくとも日韓両言語の敬語の対照研究には当てはまらないように考える。

本稿では、日本語と韓国語に関する多々の敬語に関する研究のうち、以下に述べる、Kwon（1992）と菊池（1997）の記述を参考にしながら、日韓両言語の存在動詞の尊敬形式を比較対照することにする。

Kwon（1992）では、韓国語の敬語法について、話者がある対象に対して敬意を持って言語内容を表現する文法範疇を「높임법/nophimpep/」⁽³⁾（敬語法）」と言い、敬意の意向がどの対象にあるのかによって、「聴者 높임법/nophimpep/」「主体 높임법/nophimpep/」「客体 높임법/nophimpep/」に体系化されると定義している。また、これらの「높임법/nophimpep/」の実現方法に、屈折的方法と派生的方法、そして語彙的方法の3つをあげており、屈折的方法は、主に尊敬語尾〈-으시-/usi-/〉によって、派生的方法は派生接辞の〈-님/-nim/（様）〉によって、そして語彙的方法は〈밥/pap/（飯）〉→〈진지/cinci/（ご飯）〉や〈먹다/mekta/（食べる）〉→〈잡수시다/capswusita/（めしあがる）〉のように尊敬名詞か尊敬動詞によって実現されると述べている。

日本語の敬語に関する研究は多々あるが、一般的に敬語の種類を「尊敬語」「謙讓語」「丁寧語」に3分類している。菊池（1996）では、話し手が主語を高める表現を「尊敬語」、話し手が主語を低める表現を「謙讓語」、そして話し手が聞き手に対して丁寧に述べる表現を「丁寧語」と説明しているが、この説明は、Kwon（1992）の言っている韓国語の「높임법/nophimpep/（敬語法）」の3分類とほぼ変わらなく、次の〈表1〉のような対応関係を持つと言える。

〈表1〉日韓両言語における敬語の種類に対応関係

言語 定義	日本語	韓国語
話し手が主語を高める	尊敬語	主体높임법
話し手が主語を低める	謙讓語	客体높임법
話し手が聞き手を高める	丁寧語	聴者높임법

〈表1〉をとおしても分かるように、日韓両言語ともに敬語の種類は3つでその定義もほぼ同じである。そこで本稿では、敬語の種類を、代表して「尊敬語」「謙讓語」「丁寧

語」の3つの術語で示し、統一することにする。また本稿で取り上げる存在動詞の尊敬形式は、3つの敬語形式の内、「尊敬語」に該当するので、「尊敬語」に重点を置いて見ていくことにする。

3. 日本語と韓国語の存在動詞

本稿は日本語の存在動詞が2つ存在し、韓国語の存在動詞が1つあるという違いが、尊敬形式では両言語ともに2つずつあることに注目しており、本セクションでは、日韓両言語の存在動詞について簡単に紹介することにする。

現代日本語には「ある」・「いる」の2つの存在動詞が認められるのに対して、韓国語には存在動詞の基本形式が「있다/issta/」の一形式しかない⁽⁴⁾。またそれぞれの存在動詞は様々な用法を有し、日本語の両存在動詞「ある」・「いる」の用法を韓国語では「있다/issta/」が担っていると言える⁽⁵⁾。以下の例を見られたい。

- (1) a. 机の上に本がある。
b. 책상 위에 책이 있다. /chayksang wi-ey chayk-i issta. /
- (2) a. テーブルの下に猫がいる。
b. 테이블 밑에 고양이 있다. /theyipul mith-ey koyangi-ka issta. /

この2つの例文をとおして、日本語では「本」のような非情物の存在は「ある」で表わし、「猫」のような有情物の存在には「いる」を用いるが、韓国語では存在物の有情・非情とは関係なく「있다/issta/」が用いられることが分かる⁽⁶⁾。

しかしながら、韓国語の場合も存在動詞「있다/issta/」の尊敬形式では「계시다 /kyeysita/」と「있으시다/issusita/」の両形式が、有情・非情の区別によって使い分けられ、日本語の存在動詞「ある」・「いる」の尊敬形式「いらっしゃる」・「おありになる」⁽⁷⁾と対応している。

次のセクションでは、このような日韓両言語の存在動詞の尊敬形式がどのような特質を持ち、どのような相違点を有するかについて見ていく。

4. 日本語と韓国語の存在動詞の尊敬形式

上述したとおり、韓国語では存在動詞の基本形式が「있다/issta/」の1形式しか存在しないが、尊敬形式は「계시다 /kyeysita/」と「있으시다/issusita/」の2形式が認められる。これに対して日本語の存在動詞は「ある」・「いる」の両形式があり、「いらっしゃる」と「おありになる」の両形式が尊敬形式としての意味役割を果たしている。

本セクションでは、存在動詞の尊敬形式を、敬意を持つ動詞形式と敬意が向けられる対象及びその所有物に関する名詞形式とに分けて、日韓両言語の存在動詞の尊敬形式を比

較していくことにする。

4-1 尊敬動詞形式

語彙的方法は存在動詞の普通語に対応する尊敬語を通して話し手が話題の主体を遇する方法である。日本語の「おありになる」は「ある」の尊敬語で、「いらっしゃる」は「いる」の尊敬語である。また韓国語の「계시다 /kyeysita/」と「있으시다/issusita/」は「있다/issta/」の尊敬語で、話し手が話題の主体を遇する際に用いる。

これを表で示せば〈表 2〉のようになる。

〈表 2〉日韓両言語における存在動詞の尊敬形式の敬語分類比較

敬語分類 \ 言語	日本語		韓国語	
	普通語	ある	있다	
尊敬語	いらっしゃる おいでになる	おありになる	계시다	있으시다
謙讓語 ⁽⁸⁾	おる	×	×	×
丁寧語	います	あります ございます ⁽⁹⁾	있습니다	있습니다

(×は該当する形式がないことを表わす)

しかしながら、韓国語の「있으시다/issusita/」と日本語「おありになる」は、〈尊敬する必要のある対象者〉の存在には使われることはなく、もっぱらその〈尊敬する必要のある対象者〉の所有物の存在にだけ用いられる特質を持つ。

- (3) a. 先生が教室に (いらっしゃる / *おありになる)。
 b. 선생님께서 교실에 (계시다 / *있으시다). /sensayngnim-kkeyse kyosil-ey (kyeysita/*issusita)./
- (4) a. 先生には古書がたくさん (おありになる / *いらっしゃる)。
 b. 선생님께는 고서가 많이 (있으시다 / *계시다). /sensayngnim-kkeynun kose-ka manh-i (issusita/*kyeysita)./

ここで言う〈尊敬する必要のある対象者〉の所有物⁽¹⁰⁾には、(4)の「古書」のような非情物だけではなく、その家族のような有情者をも含まれる。これは韓国語においても言えることではあるが、微妙な差があるようである。

- (5) a. 先生にはお嬢さんが (いらっしゃる / おありになる)。

- b. 선생님께는 따님이 (*계시다 / 있으시다)./sensayngnim-kkeynun ttanim-i
 (*kyeysita/issusita)./

(5a) の日本語文は、〈尊敬する必要のある対象者〉である「先生」の「お嬢さん」を、「先生」の所有物と見做していることを表わしている。この場合「いらっしゃる」⁽¹¹⁾も「おありになる」も許容されるが、どちらかと言えば、「いらっしゃる」の方が一般的なようである。これに関連して菊池(1996)では、この場合「いらっしゃる」は「お嬢さん」への尊敬語、「おありになる」は「先生」への尊敬語であるとの見解を示している。もちろん、このような解釈もできなくはないと思うのだが、そもそも「いらっしゃる」も「おありになる」も〈尊敬する必要のある対象者〉である「先生」への尊敬の念を表わすために用いられている形式であり、「先生」に対する敬意があるからこそ「娘」に対する尊称「お嬢さん」を選んでいわけで、「いらっしゃる」でも「おありになる」でも〈尊敬する必要のある対象者〉である「先生」への敬意には変わりない。この「いらっしゃる」と「おありになる」の違いは、敬意を誘発する対象に因るものではなく、「おありになる」が所有構文であること、つまり「おありになる」の方を用いると「所有」の意味が強くなって「先生」との繋がりが強調されることにあると考えられる。

これに対して(5b)の韓国語文では、「있으시다/issusita/」は許容されるのに対して、「계시다 /kyeysita/」は許容されないと言われているが、実際の会話のなかでは、「계시다 /kyeysita/」が多用される傾向にある。このことはおそらく「有情物=계시다 /kyeysita/」という意識が、韓国語の所有用法における「非情物=있으시다/issusita/」・「有情物=계시다/kyeysita/」という約束を妨げているためであると言えるのではないかと考える。このような日韓両言語の存在動詞の尊敬形式間の使い分けの原理に関しては、今後の課題にしたい。

ただし、韓国語の場合、「계시다 /kyeysita/」と「있으시다/issusita/」とでは敬度の差があるようである。以下の例を見られたい。

- (6) 한동안 또다시 침묵속에 빠져 있던 김부장은 자리에서 벌떡 일어났다.

「자, 전쟁은 이 순간에도 진행되고 있습니다. 제가 먼저 나가서 적당한 장소에 숨어 기다리겠습니다.」

「네에? 무슨 일입니까?」

「추적자가 있으시다면서요?」/chwucekca-ka issusitamyenseyo?/

(追跡者がおありだとおっしゃいましたね?)

「아, 그랬었지.」(김:99)

- (7) “실연시켰던 여자 있으세요?”/silyensikhyessten yeca issuseyyo?/

(振った女おありですか?)

“없어요”

“실연하신 적은요.”

“없어요.” (모:173)

例 (6) は、〈尊敬する必要のある対象者〉である「김부장/kimpucang/ (金部長)」を尾行している「추적자/chucekca/ (追跡者)」に対して「있으시다/issusita/」を用いている。また (7) でも〈尊敬する必要のある対象者〉である人物の「실연시켰던 여자/silyensikhyessten yeca/ (振った女)」に対して (6) と同様「있으시다/issusita/」を用いて所有の有無を確認している。すなわち、〈尊敬する必要のある対象者〉の所有物であっても〈尊敬する必要のある対象者〉にとって、大事な物ではないと判断される場合は、「있으시다/issusita/」が使われ、「계시다 /kyeysita/」に入替えると据わりの悪い文になってしまう。

さらに、このような韓国語の存在動詞の尊敬形式「계시다 /kyeysita/」と「있으시다 /issusita/」の使い分けにおける敬度の差は、補助動詞形式においても見られる。

日本語では「動詞の連用形+て+いらっしゃる」は存在しても「動詞の連用形+て+おありになる」は存在しないのに対して、韓国語では、以下の例 (8)、(9) のような使い分けが存在する。

- (8) 부모님께서 일주일 전부터 기다리고 계신 거 같은데 빨리 집에 돌아가세요.

/pumonim-kkyeyse ilcwuil cen-puthe kitaliko-kyeysin ke kathuntey ppalli cip-ey tolakaseyyo/ (ご両親が一週間前から待っていらっしゃるようだから早く家に帰ってください。)

- (9) 박형사는 생각하는 표정이었고 어리둥절해진 수호가 다시 나섰다.

「왜, 무슨 사건이라도 생겼습니까?」

「…… 차 선생은 누구를 기다리고 있었습니까. 탁자 위의 포도주잔을 보니까 누군가를 기다리고 있으신 거 같은데…….」 / …… chasensayng-un nwukwu-lul kitaliko-issusin ke kathuntye……. / (……車先生は誰を待っていましたか。テーブルの上のワイングラスを見るからには誰かを待っていらっしゃるようですね…)

「룸살롱에 근무하는 미스 한요.」

「마담도 어젯밤 두 분이 함께 주무시러 갔다고 증언했습니다만…….」 (검:246)

例 (8) では「부모님/pumonim/」という絶対的尊敬の対象には「계시다 /kyeysita/」が用いられることが分かる。しかし例 (9) では、刑事が「차 선생/chasenseyng/ (車先生)」に対して疑いの念を持って訊ねている場合で、「있으시다/issusita/」を用いることで敬

度を下げる効果を得ている。

上述したことのように日本語と韓国語の存在動詞の尊敬形式では「おありになる」が「있으시다/issusita/」に、「いらっしゃる」が「계시다/kyeysita/」に対応はしているものの、その使用範囲に違いがある。

以上のことをまとめたものが、以下の〈表3〉である。

〈表3〉日韓両言語の存在尊敬形式の使用範囲の比較

		계시다	있으시다	いらっしゃる	おありになる
存在	有情	○	×	○	×
	非情	×	×	×	×
所有	有情	×	○	○	○
	非情	×	○	×	○

(○は該当する用法があることを表わし、×は該当する用法がないことを表わす)

4-2 尊敬名詞形式

日韓両言語の存在動詞の尊敬動詞形式「おありになる」・「いらっしゃる」、「계시다/kyeysita/」・「있으시다/issusita/」を用いることで、有情物の存在や有情物及び非情物の所有を表わすことができることについてみてきたが、尊敬動詞形式だけでは据わりの良い文を作ることはいできない。

- (10) a. 先生には(お嬢さん / ??娘さん)が(いらっしゃる / おありになる)。
 b. 선생님께는(따님 / ?? 딸)이(*계시다 / 있으시다)./sensayngnim-kkeynun
 (ttanim/??ttal) -i (*kyeysita/issusita)./

例(10a)では「お嬢さん」と「いらっしゃる/おありになる」が共起して、遇すべき対象である、話題の主体「先生」に対して敬意を表わしている。また(10b)でも同様の現象が起こることが分かる。しかし日本語と韓国語とでは、波線部のように韓国語では、日本語の助詞「に」に対応する「에게/yekey/」が「尊敬助詞」の「께/kkey/」に替わって尊兄の意味を表わすが、これは日本語には見られない。また日本語では「先生」という語彙に遇すべき対象としての敬意が含まれているが、韓国語では(10b)の二重線の「尊敬の接尾辞」「님/nim/」がないと据わりの悪い文になってしまう。

5. おわりに

日韓両言語の存在動詞「ある」・「いる」と「있다/issta/」は、基本動詞として最も多く用いられるとされているが、現に韓国語の母語話者の間では、「계시다 /kyeysita/」と「있으시다/issusita/」の間違った使い分けをしている場合があり、しかも「있으시다/issusita/」の存在自体も否定してしまう者もいるくらいで、日本語の母語話者と場合

も事情はあまり変わらないように思う。

本稿では、現代日本語と韓国語の間に見られる存在動詞の尊敬形式について考察した結果、次のようなことを新しく見出すことができた。

まず、有情・非情の区別による動詞の使い分けが日本語だけではなく、存在尊敬形式では、韓国語においても有情・非情の区別があること、次に日本語の存在動詞「いる」の尊敬形式「いらっしゃる」は「ある場所における有情物の存在」だけではなく「尊敬する必要がある対象者の所有物としての有情物の存在」の意味用法としても用いられるのに対して、韓国語の存在動詞「있다/issta/」の尊敬形式「계시다/kyeysita/」は所有の意味はほとんど持たない。言い換えると日本語の存在尊敬形式「いらっしゃる」と「おありになる」は有情・非情の区別が明確ではなく、「いる」・「ある」の使い分けと同様、その使い分けにゆれが見られるのに対して、韓国語の存在尊敬形式「계시다/kyeysita/」と「있으시다/issusita/」は、所有用法では有情物も非情物とされ、「있으시다/issusita/」だけが用いられる。ただし、まれに有情物の存在物に対して、「계시다/kyeysita/」が使われることがある。この場合、「계시다/kyeysita/」と「있으시다/issusita/」の間に「계시다/kyeysita/」 > 「있으시다/issusita/」という敬度の差が存在することが分かった。また、動詞尊敬形式に加わって、「娘さん」に対して「お嬢さん」、またこれに対応する韓国語の「딸/ttal/」に対して「따님/ttanim/」の名詞尊敬形式を用いることで、遇すべき対象である、話題の主体に対して敬意を表わしていることが分かった。この場合、韓国語では、日本語の助詞「に」に対応する「에게/yekey/」が「尊敬助詞」の「께/kkey/」に替わって尊敬の意味を表わすが、日本語にはこのような現象が見られないということを確認した。

一見類似しているかに見える形式が、実際は相違していたり、相違していると思われる点に類似点が見られたりすることは、言語習得を難しくする一つの要因でもあり、今後、十分な資料の収集及びその分析を通して、日韓両言語の存在動詞に見られる特徴をより明確にしていくことで、日韓両言語の用言研究に貢献したい。

付記：本稿は、第 51 回朝鮮学会研究発表会（於 天理大学）での口頭発表の内容を一部修正、加筆してまとめたものである。

本稿作成の全般に亘ってご指導くださった古浦敏生先生に御礼を申し上げます。また貴重なコメントをくださった深見兼孝先生にも御礼を申し上げます。

【注】

- (1) 存在物が有情物か非情物かで「ある」と「いる」の両存在動詞を使い分けるのは日本語独特の表現であるとされている。これに関連して金田一（1991：202-203）

には次のような記述が見られる。

日本語では、存在を表す動詞が「いる」と「ある」と二つがありますが、「私が」「イヌが」「虫が」と、生きものの場合は「いる」を使い、無生物の場合は「机がある」「木がある」「マイクがある」と「ある」を使う。そんなことは小さい子どもでもも知っていて、ちっとも珍しいことではない、とお思いかもしれませんが、服部四郎博士（東大の言語学の名誉教授）が、たくさんの言語を調べてみたが、日本語以外にこの区別があるものをまだ自分は知らない、と言っておられる。ですから、世界の言語としては、この区別は非常に珍しい区別だということになります。

- (2) 日本側は丁寧に言うときの表現が細かく分かれているのに対して、韓国側はややぞんざいに言うときの表現が細かく分かれていることを指摘して言語学習の困難点を予測している。詳しくは荻野（1989）をご参照されたい。
- (3) 韓国語のローマ字表記は「The Yale System of Romanization」による。
- (4) 韓国語「있다/issta/」の場合、その品詞規定における様々な異論があるが、本稿では日本語と同様、存在動詞と呼ぶことにする。
- (5) しかしながら、次のような日本語の「～とある」用法や韓国語の「固有語+있다」用法は互いに対応する用法があると言い難い。これらの日韓両言語の存在動詞間の比較対照は今後の課題にしたい。

(1) 次郎の手紙には「さようなら」とある。

(2) 만화는 재미있다./manhwa-nun caemi-issta/（漫画は面白い。）

- (6) 以前は有生物・無生物といった言い方で、生きているかいないかで「ある」・「いる」を使い分けることもあったが、現在は有情・非情が存在動詞の一般的な使い分けの基準になっている。
- (7) 日本語の存在動詞の場合は、この他にも「おいでになる」・「ござる」などの尊敬形式が存在するが、本稿では、割愛している。今後の課題にしたい。
- (8) 韓国語でもいわゆる謙譲語は存在するとされている。例えば、金（1975）では「가다/kata/（行く）」の謙譲語として「가옵고/kaop-ko/」をあげている。しかしこの「-옵/op/-」がついた謙譲表現は時代劇で使われることを除いては現代韓国語ではほとんど使われることはないと考えられる。また「주다/cwuta/（あげる/やる）」に対して「드리다/turita/」のように謙譲の意味を表わす語彙が存在する場合もあるが、存在動詞「있다/issta/」に対する謙譲語はないように思える。
- (9) 新村（1995）によると、「ございます」は「ある」の意の丁寧語で、「あります」より丁寧な言い方であるとあるが、次の例のように話し手が尊敬する相手に直接話すとき、話し手の所有物を謙った言い方で言う場合に用いられる「ございます」は謙譲語に近い働きをするのではないかとと思われる。

(3) 「先生、韓日辞書は私の研究室にございますから、お使いになってください。」

(10) 韓国語では尊敬する対象そのものに対する尊敬方法を直接尊敬法と呼び、尊敬する対象の身体部位、所有物などに対する尊敬方法を間接尊敬方法と呼んで区別している。

(11) 「いらっしゃる」は「居る」だけではなく「行く」「来る」の敬語であり、「一ている」「一である」の敬語でもある。

(4) a. 本を見ていらっしゃる。 b. 先生はお元気でいらっしゃる。

【参考文献】

蒲谷宏他 (1998) 『敬語表現』 大修館書店

大野 晋 (1999) 『日本語練習帳』 岩波新書

荻野網男 (1989) 「対照言語学と日本語教育—日韓の敬語用法の対照研究を例として—」
『日本語教育』 日本語教育学会 第 69 号

荻野網男・梅田博之他 (1990) 「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」
『朝鮮学報』 第百三十六輯

荻野網男・梅田博之他 (1991) 「日本語と韓国語の第 3 者に対する敬語用法の比較対照」
『朝鮮学報』 第百四十一輯

菊池康人 (1996) 『敬語再入門』 丸善株式会社

金田一春彦 (1991) 『日本語の特質』 pp202-228 日本放送出版協会

全 淑美 (1995) 「韓・日敬語用法の対照研究—話題の人物の待遇を中心に—」 『日本語教育』 日本語教育学会 第 85 号

南 得鉉 (2000) 「存在文の意味範囲—「有情物が+ある」を中心に—」 『NIDABA』
第 29 号 西日本言語学会

柴谷方良 (1978) 『日本語の分析』 pp333-370 大修館書店

新村 出 (1995) 『大辞林 第 2 版』 三省堂

白 同善 (1996) 「日韓敬語動詞発達の要因に関する一考察」 『日本語学』 7 月号 明治
書院

권 재일 (1992) 『한국어 통사론』 pp115-133 民音社

金 亨奎 (1975) 「國語敬語法 研究」 『東洋学』 5

申 昌淳 (1984) 「現代國語尊待法概説」 沿革汎編 『國語敬語法研究』 pp389-403 集文堂

임 흥빈 (1990) 「어휘적 대우와 대우법 체계의 문제」 『국어학논문집』 (강신항교수
회갑기념) 태학사

【用例出典】〈 〉内は題目の略称

金 秀賢「모래성」 여원출판국 1986 (모)

김 병충「검은 블루스」 경향신문사 1992 (검)